

## EPIgray 使用上の注意

エレクタ株式会社アプリケーションフィックス

EPIgray を使用される際の注意点をご案内いたします。

1. iCom の使用について
2. EPID パネルの移動について

### 1. iCom の使用について

EPIgray を使用して VMAT や IMRT(Step&Shoot)の検証をする場合、EPIgray 端末が iCom 接続している必要があります。iCom は EPIgray 端末を立ち上げると自動で接続されます。

iCom 接続をしていない状態で VMAT や IMRT の iViewGT 画像を取得した場合、EPIgray 上で RT-Plan と EPID を結びつけることができません。iViewGT 上に画像があるにも関わらず、EPIgray 画面上には下記の赤枠のように画像の一覧が出ませんので注意が必要です。EPIgray の VMAT や IMRT 検証の際は必ず EPIgray の端末を立ち上げてご使用ください。





images list for the session of July 09, 2014 18:04

No. Beam (iView)	Association beam (RTPlan)	Date of acquisition (iView)	Association treatment fraction for VMAT in cine mode (ICOM-Vx)	Technique	Imaging station
<input checked="" type="checkbox"/> FIELD 1	1 : 1	July 09, 2014 18:04	Integrated mode import Integrated mode import RT Plan « PROSTATE VMAT », Beam « 1/ARC » Fraction of the July 08, 2014 10:57 Fraction of the July 09, 2014 18:04 Fraction of the July 10, 2014 09:41	Dynamic Arc. (70 frames)	iViewGT_LA

なお、Elekta の Linac の iCom port は最大 4 つまで接続可能です。Elekta 装置で iCom を使用するものは MOSAIQ、iViewGT、Catalyst、iQM です。EPIgray 端末を立ち上げると自動で iCom と接続しますので、iCom を使用する他製品との組み合わせにご注意ください。

## 2. EPID パネルの使用上の注意

EPIgray ではリニアックのビーム中心は EPID の中心へ照射されているとみなします。そのため、EPID を動かして画像を取得する場合、以下の方法によって EPIgray 上で解析位置を変更して再計算することが可能です。

- ① ビームごとに、Target が入るように EPID を動かして画像を取得します。
- ② EPIgray Expert にて該当患者を開きます。
- ③ ビーム軸をシフトさせたい EPID 画像を選択し  を選択します。
- ④  を押し、 でロックを外し、ビーム軸を動かします。
- ⑤  を押してビームセンターの位置を確定させます。
- ⑥ **Apply** で位置を適応させ再計算します。  
この場合、各ビームで照射範囲を撮影することができます。

